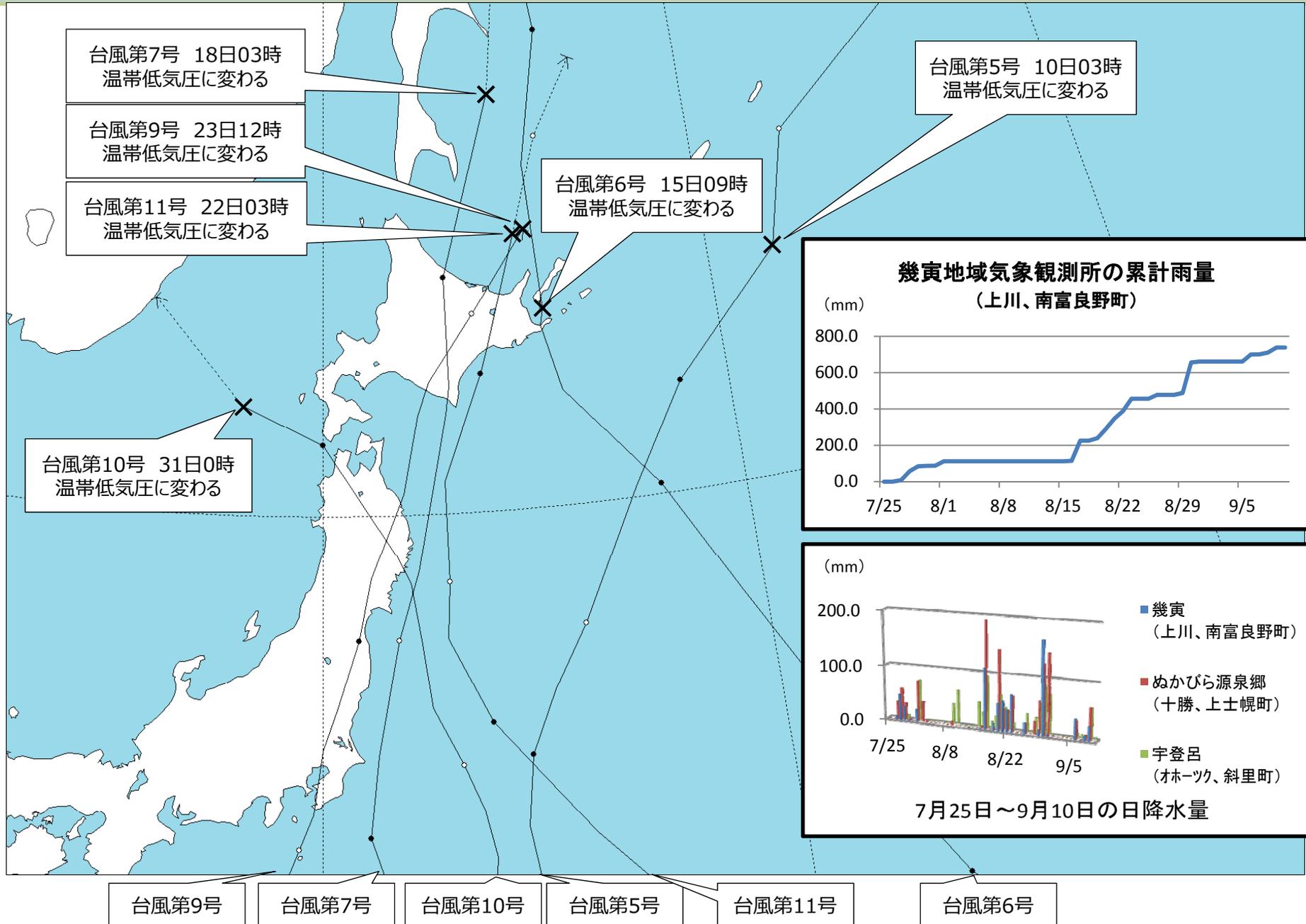


**第1回 平成28年8月北海道大雨激甚災害を踏まえた
水防災対策検討委員会**

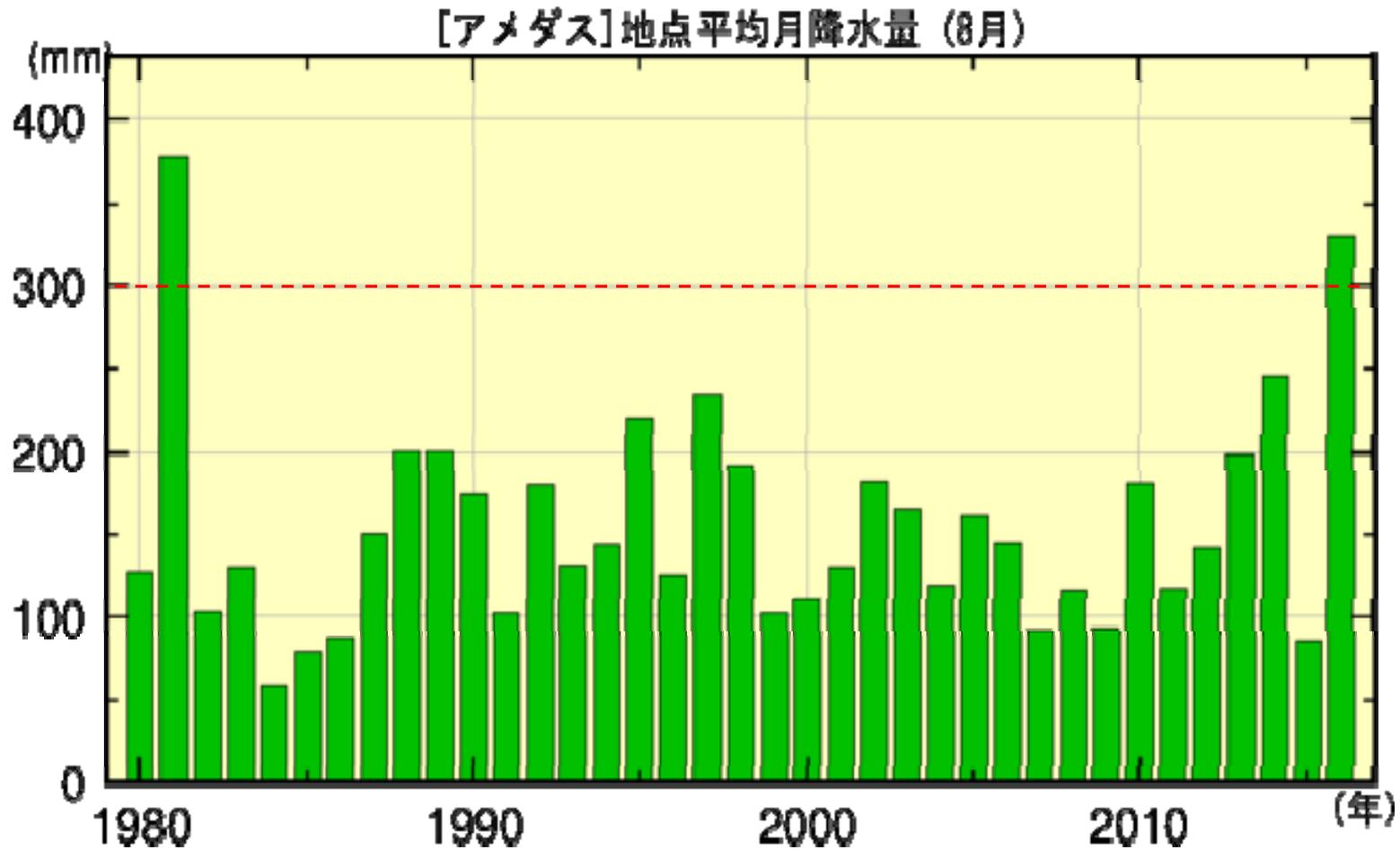
**平成28年8月を中心とした
大雨について
～相次いだ台風と前線停滞～**

**平成28年10月28日
札幌管区气象台**

北海道に接近・通過した台風（平成28年8月）



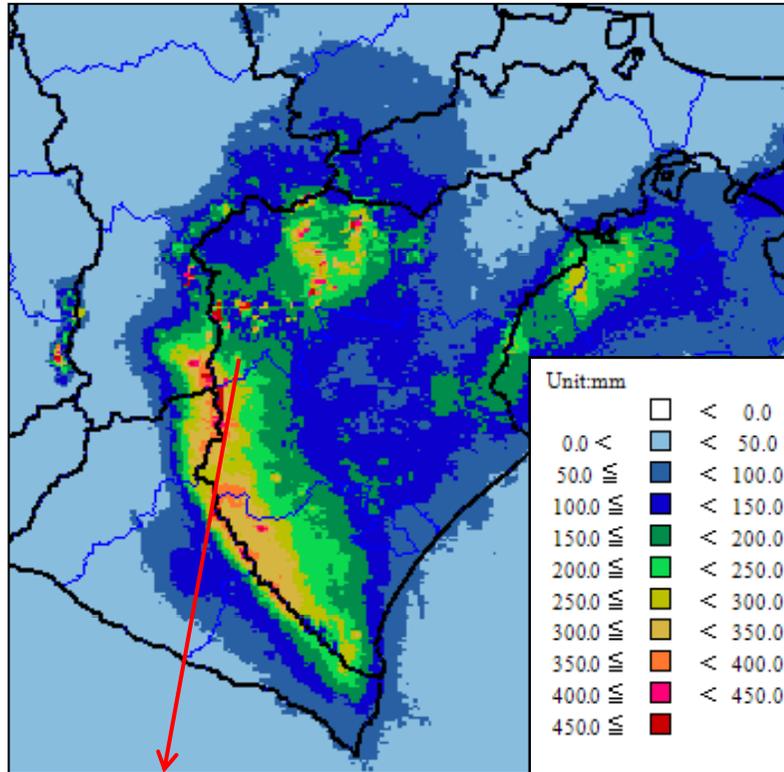
北海道内の月降水量の経年変化（8月）



1981年（昭和56年）以来の記録的な降水量

解析雨量による降水分布の特徴（8月29日～31日）

レーダー・アメダス解析雨量分布図
 （平成28年8月29日0時～8月31日24時）



大雨の要因

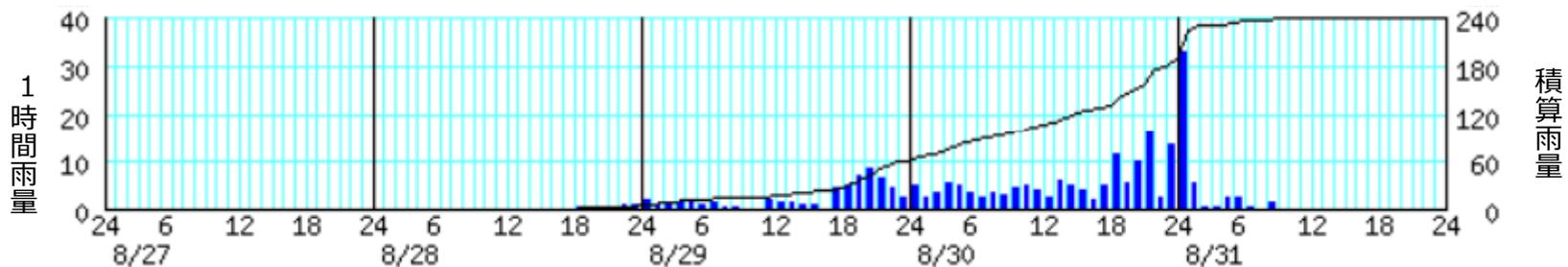
千島の東の高気圧の縁辺をまわる暖かく湿った東風が長時間にわたり流入したこと、及び台風第10号による影響。

解析雨量による降水分布の特徴

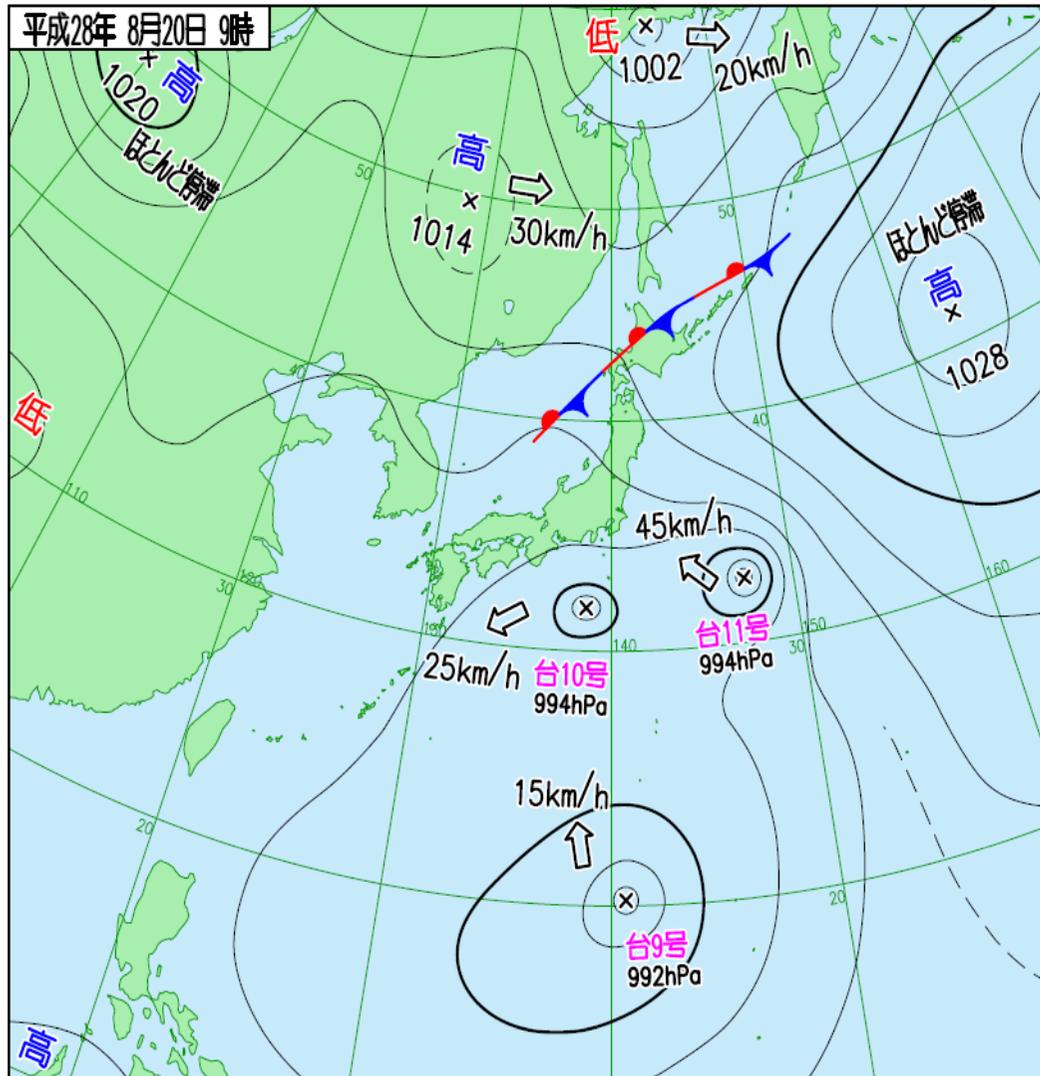
解析雨量では日高山脈沿いの広い範囲を中心に、**300ミリを超える**雨量分布となった。

特に上川南部から十勝中部にかけて、**400ミリ～450ミリを超える**雨量分布となった。

<新得> 2016年8月27日00時～2016年8月31日24時 **238.0ミリ**（アメダスによる実測雨量）



平成28年8月の台風の北上と大雨の原因

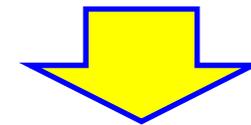


1. 台風の北上の原因

- (1) 太平洋高気圧が北偏し、日本付近への張り出しが例年に比べて弱かった
- (2) 上空の偏西風が蛇行していた

2. 大雨の原因

- (1) 北海道付近での前線の停滞
- (2) 本州付近の台風から暖かく湿った空気が北海道付近に入りやすい気圧配置が持続
- (3) 停滞していた前線の活動の活発化と台風本体の北上



このため、次々と断続的に激しい雨が降り、それぞれの事例で長雨が続き、総降水量が多くなった

多雨となった背景

～太平洋高気圧は日本付近への張り出しが弱く、台風が北上しやすい状況～

記録的な大雨となった要因の1つとして、平成28年8月は太平洋高気圧の日本付近への張り出しが弱かったことが挙げられる。

本年と平年の8月の天気図の差において、カムチャツカ半島から千島の東にかけて気圧が高かった。

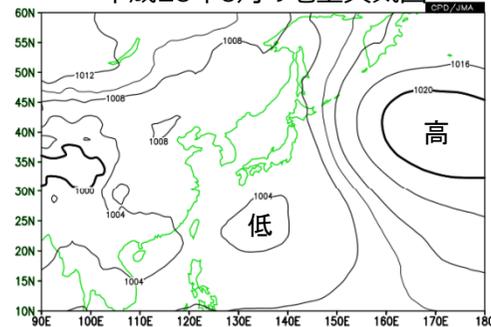
(暖色は平年より気圧が高いことを示す)

一方、日本付近は気圧が低かった。(寒色は平年より気圧が低いことを示す)

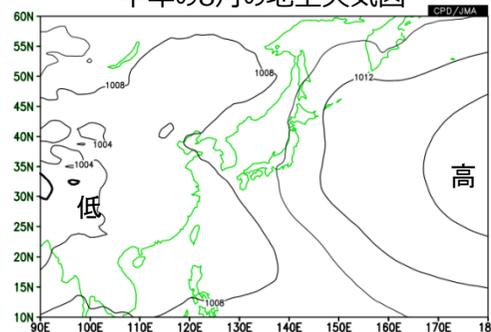
つまり、平成28年8月は太平洋高気圧が日本のはるか東で強かったものの、日本付近への張り出しは弱かったと言える。

このため、太平洋高気圧の縁に沿って台風が北海道へと北上しやすい状況であり、南から暖かく湿った空気が北海道に入りやすかったため、前線の活動も活発となった。

平成28年8月の地上天気図



平年の8月の地上天気図



本年と平年の8月の地上天気図における気圧の差

